

会津北嶺高校 キリスト教教育の二環として

会津若松教会で学ぶ

会津北嶺高校は、キリスト教教育の一環として、5月27日に1年生全員で日本キリスト教団会津若松教会を訪問した。

つた新島襄が洗礼を授けたことに始まり、1891年に新島襄が創設した同志社で学んだ者たちによって設立された由緒あるプロテスタント教会だ。新島八重ともゆかりがあり、NHK大河ドラマ「八

重の桜」が放映され非常に注目を集めた。

会津北嶺高校では、会津若松教会とのつながりの中で道徳教育の柱として1947年からキリスト教教育を行っている。

この日は、聖書科の授業を担当し、普段は猪苗代教会の牧師も務める新田恭平教諭が教会内を案内し解説した。生まれて初めてキリスト教の教会を訪ねて解説を聞いた生徒たちからは、質問が相

次ぎ、活発なやりとりがなされていた。

石山裕司校長は「本校は信仰の自由を尊重しているが、やがて人生の中で行き詰まったり、悩んだりして、苦しい時や癒しが欲しい時に訪ねられる場所として教会があることを知って欲しい」と思いを語った。

